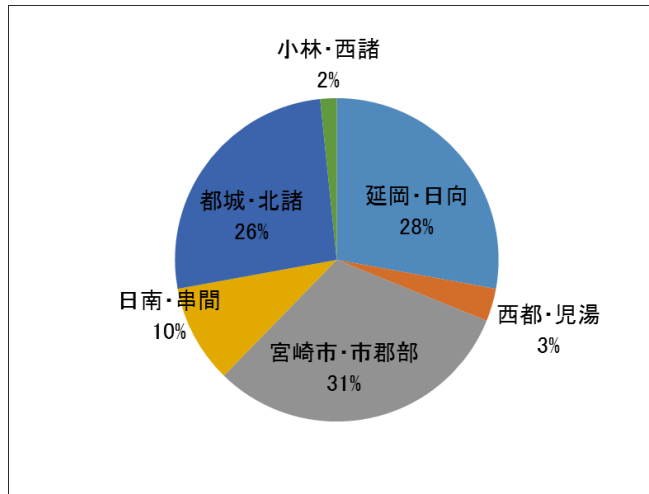


第2回『認知症初期集中支援チーム 研修会』アンケート結果

参加総数: 65名 アンケート提出 61名 (回収率: 93.8%)

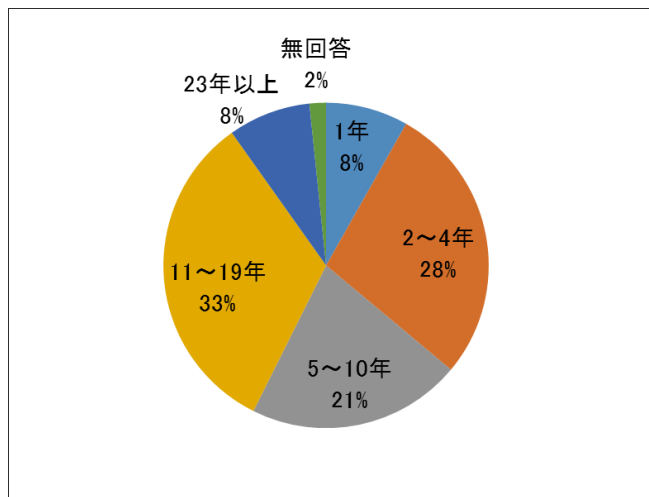
所属ブロック:

	人数
宮崎市・市郡部	19
日南・串間	6
都城・北諸	16
小林・西諸	1
延岡・日向	17
西都・児湯	2



経験年数:

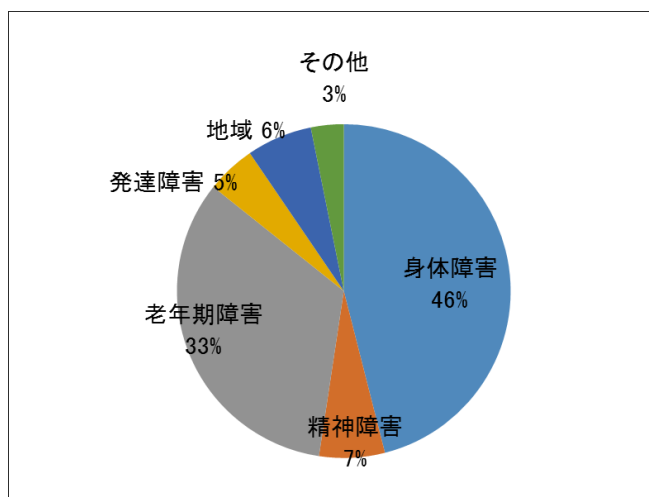
	人数
1年	5
2~4年	17
5~10年	13
11~19年	20
23年以上	5
無回答	1



主な専門領域:

	人数
老年期障害	21
身体障害	29
精神障害	4
地域	4
発達障害	3
その他	2

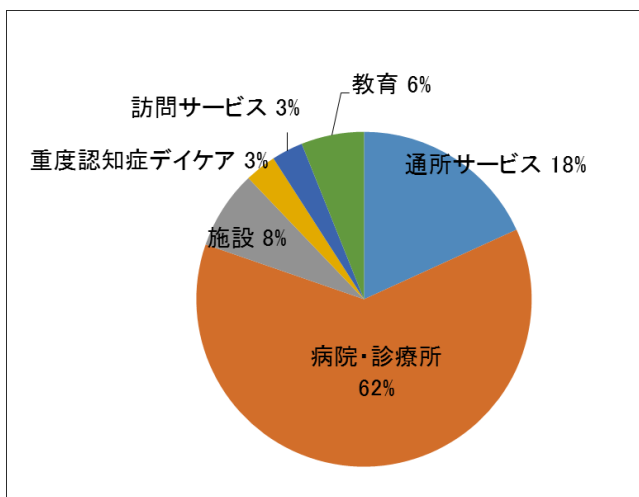
(重複回答あり)



施設区分:

	人数
病院	36
診療所	2
重度認知症デイケア	1
施設	6
通所リハ	10
通所介護	3
訪問リハ	2
教育	4

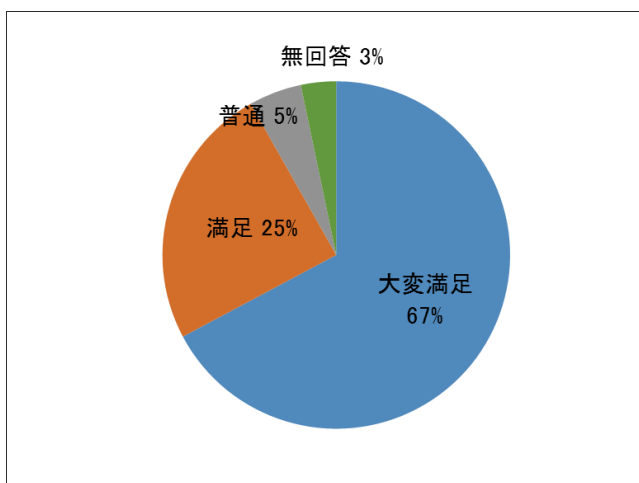
(重複回答あり)



1. 今回の研修会の内容についてお聞かせください。

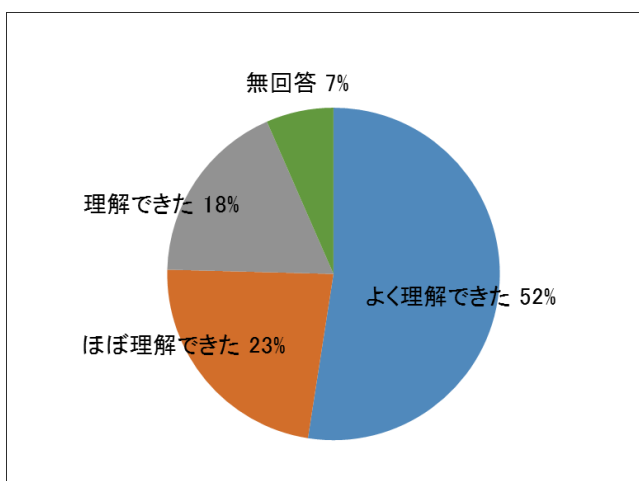
① 満足できる内容でしたか？

	人数
大変満足	41
満足	15
普通	3
無回答	2



② 理解しやすい内容でしたか？

	人数
よく理解できた	32
ほぼ理解できた	14
理解できた	11
無回答	4



2. 今回の研修会でとくに参考になった点を教えてください。

- ・評価・アセスメントのポイント(16)
- ・初期集中支援チームの支援の流れ(12)
- ・初回訪問時のアプローチ・留意点(11)
- ・社会資源の活用、周りを巻き込んでいくこと(8)
- ・地域や環境への介入(3)、ネットワークを作ること
- ・小川先生の実際の対応や介入などの体験談(3)
- ・他職種との連携(2)
- ・認知症の啓発(2)
- ・家族関係の大切さ、家族へのケア(2)
- ・OTとして何ができるか、常に考えることが大事だということ(2)
- ・対象者に合わせたアプローチを行うこと、役割活動の大切さ(2)
- ・地域での OT の役割、社会とのつながりを支援するのが OT だということ(2)
- ・新オレンジプランの流れ
- ・認知症の診断基準が変更になったこと
- ・家族や認知症の人などが施設から外にベクトルが向いていること
- ・「初期」からの介入、「初期」の状態を知ること
- ・ターゲットを絞ること
- ・「何かを始めるときは、話をやめてやってみることだ」

3. 11/1 に第 2 回研修会が開催されます。「他職種との連携」を中心にお話いただく予定になっております。講師の先生に聞いてみたいことやご希望がありましたら、ご記入ください。

- ・現場で悩むことが多いので当日楽しみにしています。
- ・情報共有や伝達を行ってもなかなか理解してもらえない。具体的に認知症の人に対する声かけの方法や介護指導をしても情報を役に立ててもらえない。反応がない。
- ・ケースワークが重要な側面があると思う。経済的問題等、OT が関わる部分もあるのでしょうか。
- ・OT が家族会など外部に発信する情報として、何から発信していけばよいのか。
- ・チームが介入する際に、ご本人ご家族以外の相談により始まった場合、本人の運転免許の制限や生活が変わってしまったりすると、机上や損害の訴えが起きることはないのでしょうか。
- ・自治体との連携方法、関わり方
- ・脳血管性認知症の人が回復期を退院するときに、主治医によっては(認知症が専門でない場合)身体的ケアが中心になり、認知症のケアが不十分な気がする。院内から連携をとるにはどうしたらよいですか。
- ・初期集中支援チームに所属できないとしても、関わったり協力できる方法
- ・他職種が OT に期待していること
- ・他職種との知識の共有方法
- ・地域ケア会議の現状
- ・現状と今後の展望
- ・地域性について
- ・OT を理解している人が少ない、OT は何をするの?と聞かれたこともある。導き方や求められていることは何か。
- ・地域の人との連携の取り方の実例
- ・他職種との意見が違う場合の対応の仕方

- ・具体的な連携のコツ
- ・どの職種にどの内容の相談をするのがよいのか知りたい(自治体、地域包括、民生委員、社協など)

4. その他、ご意見ご要望等をお願いします。

- ・何とかできるかもしれないという気持ちになった。
- ・いつも小川先生のお話を楽しく聞いています。自分も大きな視野をもってやっていきたい。
- ・初期集中支援チームや認知症の OT や研修会を行うにあたり、情報を把握している担当部署・窓口を作ってほしい。各会員へ情報をわかりやすく提示してほしい。
- ・評価の練習、OT の技術の平板化が必要
- ・普段の生活の中でいろいろな視点から物事をみるよう心掛けていきたい。
- ・OT が認知症の人にできることの可能性を知ることができ、今後の活動が楽しみになった。